

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

99.11.5 No. 5041

## 国家的大リストラに反撃を

# 11・7集会に総結集を

嵐のような大リストラ攻撃が吹き荒れ、労働者を襲おうとしている。産業再生法下における国家的大リストラ攻撃が本格的にはじまろうとしているのだ。

### 大リストラの嵐

10月18日、日産自動車は、工場を閉鎖し、三年間で二万一千人を削減するという大合理化計画を発表した。さらに計画では、下請け部品メーカーを五百社以上削減することがもりこまれており、その影響は到底2万1千名の首切りにとどまるものではない。

また25日には、三菱自動車グループが、二〇〇三年度までに二万二千四百人の削減を発表。またNTTも三年間に二万人の要員削減計画を発表している。

日産や三菱は産業再生法の適用を申請すると言われているが、28日には、住友金属が初の産業再生法の申請を決定している。

金融機関をめくっても、第一勧銀・富士・興銀の合併について、住友・さくら銀行の合併が発表されたが、合併にともない一万六千人の首切りが計画されている。

これは氷山のほんの一角に過ぎない。政府統計では、リストラされた労働者の自殺の急増で男子の平均寿命が低下したと報じられている。

### 国家的大リストラ

八月六日に成立した産業競争力再生特別措置法(産業再生法)

が猛威をふるおうとしている。産業再生法とは、主管大臣にリストラ計画(事業再構築計画)を提出し、認定を受けた企業には、商法上、税制上特例で全面的な優遇措置を与え、要するに第二の公的資金を注入するという法律だ。企業は政府公認のもとに首切りができ、しかも首を切る企業には公的資金Ⅱ国民の税金が湯水のように注ぎ込まれるのである。こんなデタラメがあつていいはずはない。

### 都労連が闘いに

小淵政権は、国家公務員にも「25%の定員削減」という膨大な首切りのワクをはめた。産業再生法も含め、やり方は国鉄分割・民営化攻撃と全く同じだ。法律で首切りを容認し、あるいは定員をさだめ、問答無用で襲いかかろうというのだ。

こうした状況のなかで、石原都知事は都職員の賃金4%、一時金10.5%カットという攻撃を攻撃を突然打ち出した。攻撃はまさに全労働者を標的にしているのである。

しかし重要な反撃の闘いも始まろうとしている。都労連は、石原の賃下げ攻撃に対し徹底抗戦する方針を決定し、5月25日から座込み闘争に突入。26日には一万人集会を開催し、11月ストに向けて闘いを開始した。都

労連は次のように訴えている。

リストラ、倒産、失業、賃金の低下、このようなことを強行して株種が上昇するとういう、強者のための社会を許してはならない。現代の社会の在り方が間違っているのだ。市場原理のために人間があるそかにされている。

20世紀最後の闘いに都労連は立ちあがる。この闘いは、労働者として当たり前の権利を行使する闘いであり、同時に二つのことを問う闘いだ。一つは、日本の労働組合はいつまでも企業社会の側に立って、すり寄って、リストラ・失業を黙認していつて明日があるのかどうかを問う闘いである。

二つには、効率が悪いものは切り捨てるような社会のあり方を問う闘いだ。石原は強者の論理の象徴であり権力者だ。われわれの闘いは負けても勝つてもいい。都労連は闘い、それが明日の社会のあり方に一石を投じることでさやかな気持ちで厳しい闘いをこれから展開する。

### 驚くべき事態!

資本主義の本質がむかきだしになってきているのだ。資本主義社会は、利潤を求めて労働者を搾取し、無限に資本を増殖しつづけることによってしか生きることのできない社会だ。しかし、

今世界には行き場のない過剰な資本、過剰な生産力があふれ返っている。自動車の生産設備で言えば、世界で二千万台分、日本で三百万台分が過剰だと言われている。また、実際に必要な額の百倍もの金が行き場を失い人間にとつての価値を何ひとつ生まない投機のために世界を駆け巡っている。

実際、株式や国債、金融派生商品など投機のために世界を駆けめぐる金は、わずか四日で世界全体の一年間の貿易額を上回る金額になる。その一方では、世界で10億の労働者が飢えているのだ。戦後の資本主義が生み出したのは、全く実体のないマネーゲームが世界を覆い尽くし、それが人間を苦しめるという究極の拝金主義に他ならない。

戦後の資本主義体制は完全に成長条件・蓄積条件を失って、労働者の首を切り、権利をはく脱し、賃金を下げ、自殺に追い込むことによってしか生きることのできなくなっている。これは資本主義社会が行き着いた驚くべき末期症状に他ならない。しかも、資本と資本が蹴落とす合戦は、労働者の犠牲をともしなうばかりか国家と国家が蹴落とし合うような関係に至らざるをえない。まさに大失業と戦争の時代が到来しようとしているのだ。世界は今、その一線を踏み超えようとしている。

今求められているのは、労働者が団結を取り戻し闘いに立ちあがることだ。闘う労働組合の全国ネットワークをつくりあげするために、全力で11・7へ!

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!